

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475300693	事業の開始年月日	平成15年12月1日	
		指定年月日	平成15年12月1日	
法人名	工藤建設株式会社			
事業所名	グループホームフローレンスケア たかつ			
所在地	(〒213-0026) 神奈川県川崎市高津区久末1744-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成30年9月16日	評価結果 市町村受理日	平成30年11月23日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭の延長の様な温かな雰囲気作りとコンセプトである『心地よさ』追求すべく努力をしている。その為にもその人（入居者）を知る事の大切さを意識し毎日が新しい発見の時でありアセスメントであると意識している。入居者の出来ない事に目を向けるのではなく、何が出来るのかの視点で考え手助けしながら自立した張りのある生活につなげていきたい。</p> <p>また、楽しみの一つでもある食事については、簡易的なものではなく、できるだけ手作りのものを、できるところまで一緒に作り、美味しく毎日食べる事で健康を維持していきたい。</p> <p>スタッフには、ご入居者の日々の生活の中にリハビリを意識し、機能訓練指導員または看護師等にもアドバイスをもらいADLの低下を防いでいきたい。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年10月24日	評価機関 評価決定日	平成30年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR南武線武蔵溝ノ口駅・武蔵新城駅、東急田園都市線溝の口駅よりバスで20分ほどの閑静な住宅地に立地している。建物は鉄骨造り2階建てでエレベーターがあり、1階には同法人が運営するデイサービスが併設されている。フロア全体がバリアフリーで、共用空間は回廊式で見守りやすく、ゆったりと広く、廊下は車椅子が交差できる。敷地内に畑と花壇があり、利用者と職員が野菜や草花を栽培している。</p> <p>【利用者主体の支援の実践】 「思いやりの心と確かな介護技術で介護高齢者の明るい未来を」という法人理念を掲げ、本当の家族のようにほっとできる家庭的な生活を送れるように職員はチームで協力し、支援している。職員は「利用者は何ができるのか」を常に考え、強制することなく、できる限り利用者のペースに合わせ、ゆったりとした生活を実践している。利用者は自主的に職員と協力して、食事の下準備、買い物、洗濯物のたたみ、園芸などを行っている。食事についてはできるだけ手作りのものを、できるところまで職員と一緒に作り、毎月季節の行事に合わせた食事会を楽しんでいる。「年間行事計画表」に基づき、季節の花見や初詣、家族参加のバス旅行、動物園などに出掛けている。</p> <p>【安心な医療体制】 協力医の内科医とは24時間オンコール体制で月2回、歯科医は2ヶ月に1回、眼科医は月1回の訪問診療がある。法人所属の作業療法士の定期訪問があり緊急時には事業所の看護師に相談できるようになっており安心な医療体制ができています。職員は「ターミナルケアマニュアル」で研修して事業所の方針を共有し、現在まで10名の看取りを経験している。</p> <p>【家族・地域との連携強化】 家族懇談会を年2回開催し、事業所広報誌「ほほえみ」を発行して家族と情報共有している。久末町内会に加入し、敬老会などの行事に参加している。毎月1回の地域清掃に利用者も参加している。久末小学校の児童が地域学習などで来訪している。月2回の傾聴ボランティアの来訪がある。同法人のデイサービスの紙工作や音楽セラピーのボランティアが訪れた時には、デイサービスを利用している方や地域の方と交流を図っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	1Fユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業方針の一つに「介護高齢者と地域社会に貢献します」とあり、毎朝朝礼時に唱和し、地域の大切さを共有している。	法人理念の「思いやりの心と確かな介護技術で介護高齢者の明るい未来を」を事務所などに掲示して朝礼で唱和し、会議などでも職員間で確認している。入社時に法人研修で理念の意味について説明している。事業所目標は、毎年作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり散歩や買い物をしながら回覧板を届けたりする中、自然とご近所との触れ合いが生まれている。また、月1回自主的な地域清掃をご入居者も一緒に取り組んでいる	久末町内会に加入している。毎日の散歩で近隣の方と挨拶を交わしている。毎月地域の清掃に利用者と職員が参加している。地域の情報は回覧板や運営推進会議で町内会副会長から得ている。敬老会や地域のどんど焼き、盆踊り大会に参加している。月2回の傾聴ボランティアや同法人のデイサービスの紙工作、音楽セラピーのボランティアを受け入れ交流を図っている。久末小学校児童の地域学習での来訪があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板にのせグループホームの活動も紹介している。今後は認知症サポーターとしてもここでの経験を生かして活動していきたいと思っている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度開催し、ご意見やご要望を伺っている。色々な立場からの提案は参考にしている。</p>	<p>毎月2回偶数月に実施している。参加者は利用者・家族・町内会副会長・地域包括支援センター職員・管理者などである。活動状況、行事案内や取組状況、事故、職員の研修内容などについて報告し、要望や意見も聞いて情報交換している。家族から動物園へ連れて行って欲しいとの声があり、実施してその後恒例化した事例がある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>法令遵守の観点から、運営上迷う事があれば都度相談し業務にあたっている。</p>	<p>高津区保健福祉センター高齢・障害課高齢者支援係が窓口である。地域包括支援センターに相談に行っている。3ヶ月に1回開催される高津区橘地区グループホーム連絡会に参加して、地域包括支援センター職員や他のグループホーム職員と情報交換している。年2回の川崎市主催認知症介護実践者研修に参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、フロアに「身体拘束の手引き」の資料をスタッフの目の届く場所に置いてある。玄関19:00~6:30迄は防犯の為施錠しているが各フロアの出入口に関しては開放している。	事業所運営規程に明記している、「身体拘束禁止と高齢者虐待防止について」に基づき研修を年1回実施している。管理者・計画作成担当者・看護師・フロアリーダーからなる「身体拘束廃止委員会」を開催し、職員間で言葉による拘束などの事例について共有している。フロアのカギは開放し、玄関は夜間安全のため施錠している。安全のため、家族の同意を得て夜間センサーを利用している方が2名いる。帰宅願望のある利用者にはお茶を飲んだり、散歩をしたりして気分転換を図っている。フロアのドア内側は森林をイメージしたシールが貼ってあり、落ち着いた雰囲気になっている。日常の散歩などで地域の方とは馴染みになり、見守りの協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、各会議等で尊厳について話し合い、普段の声掛けからも虐待ととられる場合がある事を意識づけ防止している。		

8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>本部から本の提供があり、訪問者もいつでも閲覧できるようにしている。又外部研修においての資料をもとに、会議等を通してフィードバックしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安が残らない様、安心して契約して頂ける様、配慮している。料金や医療面の事は特に丁寧に話をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営懇談会の場のみならず、サービス担当者会議や面会時には必ずお気づきの点やご要望を伺う様に心掛けている。又、普段の様子等電話でお伝えするだけでなく合わせてご意見を伺うようにしている。</p>	<p>年2回家族懇談会を開催し、意見や要望を聞いている。事業所広報誌「ほほえみ」を毎月発行し、利用者の様子を写真に撮り、掲載して家族に伝えている。家族から、音楽セラピーの要望があり対応した。居室の清掃ができていないという意見があり、法人採用の清掃クルーが週1回来訪して対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議（カンファレンス実施時と同時に）を毎月1回開催し、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。	毎月のカンファレンスや各種の委員会、朝礼や引継ぎなどで、職員の意見や要望を把握している。年1回の自己評価に基づく管理者との面接においても職員の意見や要望を聞く機会がある。管理者が常にチームワークを大切にしよう指導しており、さらに気心の知れたベテランの職員が多く、日常的に職員間で意見を言いやすい雰囲気である。意見としては備品購入などの環境整備や日々の支援についての意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが訪問され、現状の把握と希望・要望を聞く機会を設けている。又人事評価委員会の発足のもと、キャリアパスの運用や事例研究発表会等で意欲を持てる様になっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部研修を積極的に行ない、又、それをフィードバック研修として生かしている。管理者は本部より「部下の育成」を目的とした管理者研修の機会があり、管理者自ら成長出来る機会を与えられている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>高津区橋地区におけるグループホーム会議を各ホームが持ちまわりで年4回主催し、同業者との情報交換の場としている。 又、同法人の施設との交流や勉強会、時には異動等も行い双方の事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当の設置をし、アセスメント票に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人と接し話しやすい環境を作り安心感を持って頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	窓口を一つにして面会時や電話の際傾聴し要望等があった際、記録に残し対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族より希望要望を良く聞き、必要としているサービスがあれば良く見極め、出来る限りの提案をして選択出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に出来る事を見つけスタッフはサポートとして家事等共に行い生活している中で関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時及び電話連絡の際現状のご様子をお伝えしたり、一緒に参加出来る行事等企画をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、ご自宅や馴染みの場所へ出掛ける様スタッフも協力している。	知人や昔の職場の友人の来訪があり、居室でお茶の接待をしている。手紙のあて名書きや、電話の取次ぎをしている。家族対応で墓参りや、帰省、馴染みの理美容室に行く方もいる。継続して新聞を購読している方や、趣味の将棋を仲間を探して継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子から人間関係を把握している。スタッフの関わりを多くし対応している。レクリエーションや家事等提供しながら関係作りが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居した家族や、入院により退居された家族などとも、不定期ですがイベントのお誘いや連絡等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族の意向等を聞き取り、ケアカンファレンス等で話し合い共有し検討している。	アセスメントや日常の支援の中で意向把握している。把握が困難な場合は家族から聞いたり、表情や態度から把握するよう努めている。1対1の時間を大切にして、入浴時や就寝時に、意見や要望を聞くように努めている。利用者が近くに住む娘のところに行きたいという希望があり、できるように支援している。朝食はパンが良いという方にも対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票及びご本人やご家族との会話の中で、出来るだけ多くの情報を得る努力をし、スタッフ間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や記録、チェック表等で把握に努めている。その為記録の書き方の研修を受け記録の充実を図っている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議等でご本人やご家族への思いを伺い、計画作成担当者と居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。</p>	<p>アセスメントを実施し、初回介護計画書を作成し、2週間から1ヶ月でモニタリングを実施し、カンファレンスにて職員間で意見交換し、さらに家族参加のサービス担当者会議を開催している。その後6ヶ月ごとにモニタリング、見直しを繰り返している。変化があるときはその都度見直している。日々の介護記録やモニタリング記録、カンファレンス記録、サービス担当者会議の議事録など、記録を残している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面などの相談があり、ここでの生活に支障が出た場合ご本人・ご家族にとって安心出来る場所への他機関を含め情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物の際、近隣の方々と挨拶から馴染みとなり会話を楽しんだり、小学生の体験学習の受け入れ等を行い、地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関及びご家族と連携をとり、医師の指示にて受診介助を行なっている。	利用者全員が協力医の内科医を受診している。内科医は月2回の往診があるほか、必要時はその都度対応している。眼科医は2ヶ月に1回、歯科医は月1回の往診がある。そのほかに皮膚科や耳鼻咽喉科、整形外科を利用している方がいる。基本的には家族対応で、できない場合には職員が対応している。職員対応、家族対応、いずれの場合でも受診結果を「通院報告書」に記入して職員間で共有している。協力医の往診時には「訪問診療報告書」に記入している。看護師は往診前に往診予定表に利用者個人の近況を記入して、事前に協力医に情報を送信している。	

31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師の出勤時に相談し対応している。急な場合は看護師へのオンコールや協力医療機関の往診医へ相談している。又、併設のデイサービスの看護師への協力相談も時として行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時看護介護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、入院先への面会時に医師・看護師より情報を得ている。退院前にはムンテラに参加しホームでの生活が安心して送れる様、努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営懇談会にて終末期のあり方について話し合い、順次往診医とご家族の面談の機会を設け急変時の対応等ご家族より同意を頂いている。	「看取り介護に関する指針」を契約時に説明している。医師により「終末期の状態にある」と判断された場合には、その都度家族、医師、管理者などで話し合い、対応している。家族からは「看取り介護についての同意書」に押印をもらい、同意を得ている。職員は管理者や看護師から、毎年看取りについて「ターミナルケアマニュアル」に基づき研修を受け、事業所の方針を共有している。現在まで10名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様にしている。主要の連絡先も壁に張り出している。		

35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回日中及び夜間を想定して実施している。地域推進会議の地域住民代表の方とも話し合いを持っている。</p>	<p>年2回避難訓練を実施している。そのうち1回は消防署の立ち合いがある。夜間を想定した訓練を実施している。事業所の避難訓練には地域の方の参加がなく、地域の防災訓練にも利用者や職員は参加していない。運営推進会議で地域の方の参加をお願いしている。災害時の備蓄として水や非常食、カセットコンロや日用品などを職員分も含めて3日分準備している。スプリンクラーなどの設置があり、建物周辺には防犯カメラを設置している。緊急連絡網で近隣の職員が駆けつけられる体制はできている。</p>	<p>災害時に地域の方の協力は必要です。地域の防災訓練に職員や利用者が参加し、事業所の避難訓練には地域の方の参加を期待します。運営推進会議などで呼びかけていますが、さらに行政などへ積極的に働きかけ、災害協定や地域の方の協力が得られるような支援を要望します。</p>
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本部研修や内部研修を行い、ユニット会議等で言動に注意する様伝えている。	法人研修テキストにより、年1回、プライバシー保護や倫理・法令、個人情報保護、マナー研修などを実施している。利用者に対して「さん」づけで呼ぶよう指導している。トイレ誘導時はさりげなく、周りに気付かれないよう配慮している。個人情報を含む書類はカギのかかる場所に保管し、持ち出し禁止にしており、廃棄はシュレッターを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り選択しやすい工夫をして、その人らしい生活が営める様援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日々家事やレクリエーション等提供するが無理強いせず本人のペースで生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容等個別に馴染みの物を使用している。訪問理美容も毎月入りご本人の意思にて行っている。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>スタッフがサポートして調理や片付け等を行っている。メニューは家庭料理がメインだが、入居者の希望や検食簿等から毎月見直し、量も個々に合わせた量を提供している。</p>	<p>朝食は職員が食材を購入し、調理して提供している。昼食と夕食は食材卸業者がメニューを作成し、それに合った食材を配達している。専任の調理師が調理し、利用者は、できるところまで、下準備や、盛り付け、後片付けなどを行っている。和風レストランに出掛ける事もあり、クリスマスにはケーキやチキン、正月にはおせちなど季節の行事に合わせた料理を楽しんでいる。利用者の状況に合わせて、きざみ食や、とろみ食を提供している。職員は同じものを食べながら介助している。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態を考え、その日の体調を考慮して食べやすく提供している。食事量のチェックや水分量に少ない方には嗜好品をこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人にあつた口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンをチェック表等を通して把握し適度な運動（腹筋運動等）を心がけ失禁の無い様心掛けている。	紙おむつを利用している方が1名、リハビリパンツを利用している方が10名、その他の方は布パンツを使用している。利用者の排せつパターンを把握して、トイレ誘導し、自立を促している。病院から退院した方が紙おむつからリハビリパンツ、布パンツに替わるなど改善した事例がある。夜間は、利用者の状況に応じて、紙おむつで睡眠を優先する方やトイレ誘導する方など対応を変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多いメニューを作り、水分も1日1500CC以上摂れる様こまめに提供している。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ご本人の体調や希望により週2～3回の入浴をし、時間も20分～50分程かけ入って頂いている。但し、曜日はほぼ毎日提供しているが、時間は9：00-16：00の間と限られている。</p>	<p>入浴は週2回を基本としているが、利用者の毎日入浴したいなどの声や同性介助の要望にはできる限り応えている。入浴を好まない方には時間や担当者を変えて対応している。オーナーからゆずの提供があり、ゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。エアコンを設置してヒートショック対策をしており、お湯は1回ごとに取り替えている。状況に応じてシャワー一浴にすることもある。</p>	
----	----	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明の明るさや室温等個別に調整し好きな時間に穏やかな気持ちになって頂ける様に声を掛け休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフロアに置き開示し、薬局の薬剤師が毎週金曜日に配薬を1週間分セットし、服薬時再度確認のダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の好きな方には材料を切ったり洗い物をしたりと積極的にして頂いたり、歌の好きな方には大きな声で歌って頂き楽しみながら生活をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外は散歩や買い物に出かけ、途中花や周りの様子の話を近隣の方ともしている。男性のご入居者は近所に床屋があるので、毎月床屋さんまで歩いて行きカット髭剃りをしている。	天気の良い日は散歩に出かけている。車椅子の方も散歩に出かけている。敷地内で日光浴を楽しむ方もいる。近隣のコンビニや理容室に出掛けることもある。「年間行事計画書」を作成し季節の花見や初詣、動物園、家族と一緒にバス旅行に出掛けることもある。要望があれば、個別に買い物などを支援している。車でスーパーに買い物に行くこともある。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>要望があれば近隣のコンビニ等で買い物をして頂いている。</p>		
----	---	------------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時や連絡が来た際電話の取次ぎを行っている。手紙の場合も一緒に切手を買ってポスト迄投函しに行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に掃除を行い衛生面に留意している。レクリエーション等でフロアの飾りを作成したり季節の行事等行い楽しんで頂いている。	明るく清掃が行き届いている。廊下は回廊式で、中央のキッチンからフロア内を見渡すことができる。室内は手作りの作品や写真が飾られ季節感がある。洗面所などは車椅子対応の高さになっている。コーナーにソファやマッサージ機があり、利用者はのんびりくつろぐことができる。各フロアに3ヶ所トイレがあり、内2ヶ所は車椅子対応である。室内には加湿器、空気清浄機などが設置され、過ごしやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内には談話室や食堂等で気の合うお仲間と過ごせる空間があり、飾りなどにより話が盛り上がる雰囲気作りを工夫している。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自分の使っていた物（家具）等を持ち込んで頂き、馴染みのある物の中で生活して頂いている。</p>	<p>エアコンとクローゼットが備え付けでカーテンや照明、ベッドなどは利用者が持ち込んでいる。仏壇、TV、家族の写真などを持ち込んでいる方もいる。自分の作品や誕生会でもらった賞状など飾っている方もいる。季節の衣替えは居室担当者や家族が対応している。入り口には手作りの名札が飾られており、分かりやすくなっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。テーブル等は角の丸い物を使用し安全な導線を確保している。</p>		

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	2Fユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業方針の一つに「介護高齢者と地域社会に貢献します」とあり、毎朝朝礼時に唱和し、地域の大切さを共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり散歩や買い物をしながら回覧板を届けたりする中、自然とご近所との触れ合いが生まれている。また、月1回自主的な地域清掃をご入居者も一緒に取り組んでいる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板にのせグループホームの活動も紹介している。今後は認知症サポーターとしてもここでの経験を生かして活動していきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ご意見やご要望を伺っている。色々な立場からの提案は参考にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法令遵守の観点から、運営上迷う事があれば都度相談し業務にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、フロアに「身体拘束の手引き」の資料をスタッフの目の届く場所に置いてある。玄関19：00～6:30迄は防犯の為施錠しているが各フロアの出入口に関しては開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、各会議等で尊厳について話し合い、普段の声掛けからも虐待ととられる場合がある事を意識づけ防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本部から本の提供があり、訪問者もいつでも閲覧できるようにしている。又外部研修においての資料をもとに、会議等を通してフィードバックしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安が残らない様、安心して契約して頂ける様配慮している。料金や医療面の事は特に丁寧に話をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営懇談会の場のみならず、サービス担当者会議や面会時には必ずお気づきの点やご要望を伺う様に心掛けている。又普段の様子等電話でお伝えするだけでなく合わせてご意見を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議（カンファレンスと同時に）を毎月1回開催し、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが訪問され、現状の把握と希望・要望を聞く機会を設けている。又人事評価委員会の発足のもと、キャリアパスの運用や事例研究発表会等で意欲を持てる様にしてている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部研修を積極的に行ない又それをフィードバック研修として生かしている。管理者は本部より「部下の育成」を目的とした管理者研修の機会があり、管理者自ら成長出来る機会を与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高津区橋地区におけるグループホーム会議を各ホームが持ちまわりで年4回主催し、同業者との情報交換の場としている。又同法人の施設との交流や勉強会、時には異動等も行い双方の事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当の設置をし、アセスメント票に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人と接し話しやすい環境を作り安心感を持って頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	窓口を一つにして面会時や電話の際傾聴し要望等があった際、記録に残し対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族より希望要望を良く聞き、必要としているサービスがあれば良く見極め、出来る限りの提案をして選択出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に出来る事を見つけスタッフはサポートとして家事等共に行い生活している中で関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時及び電話連絡の際現状のご様子をお伝えしたり、一緒に参加出来る行事等企画をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、ご自宅や馴染みの場所へ出掛ける様スタッフも協力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子から人間関係を把握している。スタッフの関わりを多くし対応している。レクリエーションや家事等提供しながら関係作りが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居した家族や、入院により退居された家族などとも、不定期ですがイベントのお誘いや連絡等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族の意向等を聞き取り、ケアカンファレンス等で話し合い共有し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票及びご本人やご家族との会話の中で、出来るだけ多くの情報を得る努力をし、スタッフ間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や記録、チェック表等で把握に努めている。その為記録の書き方の研修を受け記録の充実を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等でご本人やご家族への思いを伺い、計画作成担当者と居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面の相談があり、ここでの生活に支障が出た場合ご本人・家族にとって安心出来る場所への他機関を含め情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物の際、近隣の方々と挨拶から馴染みとなり会話を楽しんだり、小学生の体験学習の受け入れ等を行い、地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関及びご家族と連携をとり、医師の指示にて受診介助を行なっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時に相談し対応している。急な場合は看護師へのオンコールや協力医療機関の往診医へ相談している。又併設のデイサービスの看護師への協力相談も時として行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護看護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、入院先への面会時に医師・看護師より情報を得ている。退院前にはムンテラに参加しホームでの生活が安心して送れる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営懇談会にて終末期のあり方について話し合い、順次往診医とご家族の面談の機会を設け急変時の対応等ご家族より同意を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様になっている。主要の連絡先も壁に張り出している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中及び夜間を想定して実施している。地域推進会議の地域住民代表の方とも話し合いを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本部研修や内部研修を行い、ユニット会議等で言動に注意する様伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り選択しやすい工夫をして、その人らしい生活が営める様援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日々家事やレクリエーション等提供するが無理強いせず本人のペースで生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容等個別に馴染みの物を使用している。訪問理美容も毎月入りご本人の意思にて行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフがサポートして調理や片付け等を行っている。メニューは家庭料理がメインだが、入居者の希望や検食簿等から毎月見直し、量も個々に合わせた量を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態を考え、その日の体調を考慮して食べやすく提供している。食事量のチェックや水分量に少ない方には嗜好品をこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人にあった口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンをチェック表等を通して把握し適度な運動（腹筋運動等）を心がけ失禁の無い様心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多いメニューを作り、水分も1日1200CC以上摂れる様こまめに提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や希望により週2～3回の入浴をし時間も20分～50分程かけ入って頂いている。但し、曜日はほぼ毎日提供しているが、時間は9：00-16：00の間と限らせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明の明るさや室温等個別に調整し好きな時間に穏やかな気持ちになって頂ける様に声を掛け休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフローアに置き開示し、薬局の薬剤師が毎週金曜日に配薬を1週間分セットし、服薬時再度確認のダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の好きな方には材料を切ったり洗い物をしたりと積極的にして頂いたり、歌の好きな方には大きな声で歌って頂き楽しみながら生活をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外は散歩や買い物に出かけ、途中花や周りの様子の話を近隣の方ともしている。男性のご入居者は近所に床屋があるので、毎月床屋さんまで歩いて行きカット髭剃りをしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望があれば近隣のコンビニ等で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時や連絡が来た際電話の取次ぎを行っている。手紙の場合も一緒に切手を買ってポスト迄投函しに行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に掃除を行い衛生面に留意している。レクリエーション等でフロアーの飾りを作成したり季節の行事等行い楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内には談話室や食堂等で気の合うお仲間と過ごせる空間があり、飾りなどにより話が盛り上がる雰囲気作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた物（家具）等を持ち込んで頂き、馴染みのある物の中で生活して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。テーブル等は角の丸い物を使用し安全な導線を確認している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHフローレンスケアたかつ

作成日 平成30年11月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	サービスの質の維持・向上の為に、離職率の低下に努め安定した人員体制を図る。	働きやすい環境作りや待遇面の見直し、個々の目標設定や研修を通してモチベーションを上げる。	職員個々との面談の実施・定期的な研修の実施。 近隣の競合他社との待遇面等を勧案する。	1年間
2	35	災害対策について、地域との共同防災訓練が出来ておらず、地域からの協力を得られていない。	地域の方も防災訓練に参加してもらえ、地域の方から協力を得られる。	先ずは事業所を知ってもらうために、こちらから積極的な地域行や地域の防災訓練に参加し、近隣へのアピールと参加の促しを図る。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。